

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社ふくし・ファーム

②事業者情報

名称：藤沢北・藤沢北第二・藤沢北第三学童保育室	種別：放課後児童クラブ
代表者氏名：小松 秀人	定員(利用人数)：120 名
所在地：〒358-0002 埼玉県入間市東町7-7-1 藤沢北小学校校地内	TEL 04-2964-3718

③評価実施期間

令和5年7月7日(契約日)～令和6年1月15日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

・マンカラやパズルボードゲームなど、デジタルに頼らない学童保育室ならではの遊びを用意しています。これは職員間で学びの成果が共有化された成果であり、施設に通う動機になり得るものです。また、長期休みの際にビンゴ大会やスライム作りを企画するとともに、同運営法人が提供するプログラミング教室に(学童保育室の利用児は無料で)参加できるようにしています。そのほか、「出張わくドキ!(ボランティアによる工作教室)」や「移動児童館」などのプログラムを用意して楽しく過ごせるようにしています。施設職員・運営法人・市の工夫により、子どもが多様な経験を通じて楽しく過ごせるよう、遊びの機会や環境を充実させています。

・おやつについてアンケート調査を行い、子どもの好みのものを提供しています。そして漫画も子どもの人気を意識して取り揃えています。一方、遊びの時間において、17時の前後で使える玩具が切り替わっていたものを17時30分の前後に変更しましたが、これも子どもの声を受けたことを契機としています。設備面では、老朽化に伴い小学校敷地内に新設した建物は学童保育室とは思われない外観であり、玄関内の様子が覗かれないように暖簾を設置するなど、近隣住民や保護者の意向に配慮したものとなっています。さらに、夏休みなどで子どもが朝から通ってくる季節において、昼食を専門業者に注文できる仕組みを設けています。これらの配慮やサービスは、利用者と関係者を尊重する姿勢を示す取り組みであると思われま

す。「期待する職員像」を「自己研鑽に励み、必要な知識や技術の修得、維持及び向上に努めている」と示しています。その実現に向けて、運営法人では放課後児童支援員の資格取得を支援しているほか、各研修を実施しています。具体的な研修として、外部講師による「マタernalサポート講座」や玩具の遊び方・個人情報保護・保育倫理・メンタルケアなどをテーマにした研修を実施し、常勤職員一人当たり、年10回以上、研修に参加しています。また、職員全体で学び合う場として、研究会(年10回)を開催しています。そのほか、新任チーフ研修・サブリーダー研修・わかまる会・救急救命講習などの研修や、市が主催する放課後児童支援員研修などに参加し、スキルを高めています。このように、法人内研修を中心に職員の教育・研修の機会を確保し、育成を図っています。

◇特にコメントを要する点

・「ご利用案内」に「支援員一同が大切にしたいこと…」や「行事と1日の流れ」を記載しています。また、育成日誌を作成して、日々の主な活動や保育内容、事務連絡などを記録しています。ただし、当該施設に現在通っている子どもの姿を総括したうえで、どのような子どもに育つことを目指し、学年や季節に応じた支援をどのような方法により行うのかを示した育成支援計画を策定していません。育成日誌も、活動や保育の成果を総括する内容にはなっていません。前年度来、生活リズム（おやつを出すタイミングや玩具・遊具を使える時間）や環境整備について施設全体で仕組みを統一的に見直した経過がありますが、その成果を客観的に振り返るためにも、施設職員が目指した目標と経過を育成支援計画や日誌の記録することが望まれます。

・管理・運営の範囲が施設内に限られています。コロナ禍の影響もあり、地域との連携が進んでいません。保護者が運営に参画する機会を設けていませんが、保護者支援の必要性を認めており、保護者同士が交流できる機会の創出を目指しています。そして、小学校と連携・協力する仕組みが機能していない点は大きな課題となっています。日頃から個別・集団の両面で子どもの様子・情報について共有するとともに、施設・設備の安全管理や緊急時の対応方法などについて訓練を含め確認を行うことが必要です。小学校の理解を得る必要があることから、市による調整も必要になると思われませんが、まずは定期的な実務者間でミーティングを開催し、子どもや保護者からの口頭の情報で小学校での出来事を知るような状態は解消することが期待されます。

・法人では、経営理念である「子育てにしあわせな社会の創造」を軸に3つの「ありたい姿」、「子ども・子育てに関わる社会課題の解決」、「0歳～18歳までの多様な子どものしあわせに生きる根っこを育む」、「社員とのその家族のしあわせの実現」を掲げ定めています。収支計画の進捗状況については、経営会議で確認しています。それに対し、施設では「子どもたち1人1人の個性を理解・尊重し（目標：60%）、自ら考えて行動できる環境作りを支援する（目標：40%）」をテーマとしています。ただし、具体的な手段やタイムラインは示されていない状況です。より具体的な事業計画を策定するとともに、計画の実施状況を把握し、評価する仕組みを作ることが望まれます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

この度は、貴重な評価をいただき、自施設の強みや改善点について理解を深めることができました。特に、「デジタルに頼らない遊び」や「多様なプログラムの企画活動」の評価に感謝申し上げます。今後も、子どもや保護者の声を大切に、より良い環境を提供できるよう心がけてまいります。自社内の研修制度を活かし、知識や技術の向上に努め、常に学びの機会を追求してまいります。同時に、評価から上がった課題に真摯に向き合い、具体的な目標を設定し、児童の育成支援計画を策定していく予定です。これにより、施設スタッフが充実したサポートを提供できるよう努めます。また、地域との連携を大切に、市と協力して情報を共有する場を計画しています。これにより、地域社会との一体感を強化し、より良い子育て環境の構築に貢献していきます。今後の施設運営を子どもをまんやかに、保護者・地域とつなぎ更に向上していく所存です。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果
別紙「評価細目の第三者評価結果」とおり